日本統計学会会報 2012.7.25 No. 152

発行―― 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
（公財）統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax：03-3234-7738
編集責任―岩崎　学（理事長）／上野　玄太（庶務理事）
鈴川　晶夫（広報理事）／北村　佳之（広報委員）
竹内　惠行（広報委員）
振替口座―00110-3-743886
銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1．巻頭随筆：「日本銀行政策委員会審議委員時代の思い出」…… 須田美矢子…1
2．第17回日本統計学会賞について…… 竹村彰通…3
3．第８回日本統計学会統計活動賞について …… 竹村彰通…4
4．第８回日本統計学会統計教育賞について …… 竹村彰通…5
5．第６回日本統計学会研究業績賞について …… 竹村彰通…7
6．第５回日本統計学会統計出版賞について …… 竹村彰通…8
7．第26回日本統計学会小川研究奨励賞について …… 竹村彰通…9
8．2012年度統計関連学会連合大会のおしらせ（第三報）…… 水田正弘・宿久　洋・瀬尾　隆…10
9．定時社員総会報告 ……14
10．第１回通常理事会・委員会報告 ……22
11．学会事務局から ……24
12．投稿のお願い ……24

1．巻頭随筆

「日本銀行政策委員会審議委員時代の思い出」

須田　美矢子（甲南大学特別客員教授）

10年間の日本銀行政策委員会審議委員を終えて一年以上たち，改めて日銀での生活を振り返ると，情報は座っていても大量に集まってきたし，重要なものはブリーフィングを受け，その上で議論ができた．自らの視野を広め，理解を深める上でも，非常に刺激的な環境にあったといえる．他方で，金融政策だけでなく，最高意思決定機関の一員として重要事項の決定に携わったが，その責任は非常に重いものであった．そのときどきで最善の決定ができるように，常にどのような事項に対しても真剣に取り組んだが，決定を迫られる生活から解放された現在，当時のストレスの大きさを改めて感じている．

そうした生活の中で，経済物価情勢の現状・見通しについての判断と，そのもとになる内外の情報の把握に費やした時間がもっとも長かった．経済物価情勢をしっかりと把握できていれば，政策対応を大きく間違うことはないからである．市場の動きや公表指標をチェックし，自分の経済物価の現状・見通しに位置づけていくというのが日々の欠かせない作業であった．日銀内外の様々なレポートも参考にするので，日々目を通す資料はかなり多かった．決定会合が近くなれば，前回会合以降にえられた情報全体を自分なりに評価する．自分自身の経済物価見通しは，政策目標達成のために必要な政策パスを想定し，それを織り込んだ

上で作り上げているので，経済物価情勢が見通し通りなのか，リスクをどうみるのか，自分なりの判断を固めることができれば，政策判断にはそう時間がかからなかった．もちろん，金融政策の枠組みを変えたり，透明性を高めるための重要な決定などを行う場合には，かなり時間をかけて考えたのはいうまでもないが．

統計データをめぐっては，四半期経済成長率や米国の雇用統計など，振れや改訂が大きいものが少なからずあり，不確実性が高い中で，フォワードルッキングに政策をやっていく上で悩まされることが多かった．リーマンショック後の不完全な季節調整はトレンド把握を難しくした．以下，データに振りまわされた感のある具体的事例として，日米の消費者物価の改訂をとりあげておこう．

米国については，2000年代前半の過度な金融緩和の継続が住宅バブルの一因として指摘されている．FRB（米連邦準備制度）がそのような政策をとったのはデフレ懸念からであったが，後に指数が上方改訂され，そのような懸念は杞憂であった．ダラス連銀のフィッシャー総裁は，「後になってコア消費者物価（PCE 上昇率）が0.5％上方修正されたため，結果的に緩和しすぎとなってしまった」と述べている．

日本については，注目しているのがラスパイレス型消費者物価指数（CPI）であり，逆のことが起こった．量的緩和政策解除の条件の一つとして，直近のコア CPI 上昇率が「単月でゼロ％以上となるだけでなく，基調的な動きとしてゼロ％以上であると判断できることが必要である」としていたが，足元の数値は0.5％となり，後に想定されていた指数改訂は0.2～0.3％の下方修正との判断もあって，2006年３月に量的緩和政策解除を決めた．しかし指数改訂による下方修正が，指数算出方法の一部見直しがあって0.5％と大きかったため，2007年までコア CPI 上昇率はプラスマイナスゼロ近傍の値が続くことになった．大方は解除時に異例の量的緩和政策からうまく脱出できたと評価していたものの，数値の改訂後，解除が早すぎたという批判も聞かれるようになった．

なお，日銀は今年２月に，物価安定の目途の導入と，当面１％を目指して強力に金融緩和を推進することを決定したが，それ以降，国民との政策対話で CPI 上昇率の「数値」により関心が向けられるようになっている．それは，改訂の具体的な方法だけでなく，銘柄変更，品質調整，消費税引き上げの影響など，今後も技術的な取り決め如何で影響を受けるが，技術的要因によって金融政策が振り回される可能性が高まったのではないかと懸念している．

データについてもっと大きな問題は，そもそもデータが手に入らず，実態の把握が困難な場合である．私の審議委員時代は，9.11に始まり，リーマンショックからソブリン危機，そして3.11と，大きなショックに見舞われた10年であった．サブプライム問題が顕現化した2007年夏以降は状況の把握にいかに苦労したか．とりわけ海外の状況の把握はむずかしく，海外事務所をはじめ関連部署はフル稼働であった．証券化商品については，欧米と本邦金融機関について，おおよその保有量が把握できるまでは不透明感・不安感が強かった．実際，本邦金融機関についても資産保有の内容と証券化商品の様々な価格変動をチェックすることで自らの目で全体像を確かめることができるようになって，本邦金融システムへの直接的な影響は大きくないとの認識を日銀内で共有することができた．今日，マクロプルーデンスの視点の重要性が指摘されているが，基本的に守秘義務のあるデータを集めることになるので，集めた部署に分析力が備わっていないと宝の持ち腐れとなる．データ収集には報告者も受け取り手もコストがかかるので目的達成のために必要最小限とすることも重要である．現在，ソブリン・不良債権問題を抱えている欧州において，分析力のあるところにデータが十分に集まるのか，この点が気になっている．

データを集める難しさは，日銀は物価統計のメーカーでもあるので，十分承知している．企業に価格を問う商品の具体的な選択も大変だし，調査先の新規開拓・拡充のために，職員が全国をお願いしに飛び回っているものの，なぜ協力しなけれ

ばならないのかと，色よい返事がもらえない．また理論的に正しいことであっても，データが集まらない，あるいは収集に非常にコストがかかるようでは，実施することはむずかしい．ヒトとカネが限られた中でいろいろ努力しているのを見聞きするにつけ，国の統計も一次情報はなかなか集めにくくなっているのではないか．既存の一次統計の改善も大事ではあるがその拡充にコストをかけるよりも，推計やその他統計の利用などでコストを削減し，その分サービスなどこれから重要な統計拡充に資源を有効活用してほしいと思う．

２．第17回日本統計学会賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

［1］受賞者氏名：田中　豊　氏

略歴：1962年　東京大学工学部応用物理学科卒業，1962年　武田薬品工業株式会社，1979年　岡山大学教養部助教授，1979年　理学博士，1981年　岡山大学教養部教授，1994年岡山大学環境理工学部教授，2004年岡山大学名誉教授，2004年南山大学数理情報学部数理科学科教授，2010年　統計数理研究所データ科学系特命教授，現在に至る．

授賞理由：田中氏は，計算機統計学，多変量解析学の理論及び応用の研究において多大な貢献を果たした．数量化法における統計的推測並びに順序制約つき数量化法，因子分析・主成分分析における変数選択，多変量解析における感度分析などにおいて多くの独創的で新しい研究成果を公表した．特に，データの微細な変化にともなう分析結果への影響の問題を取り扱う感度分析に関する研究は，国際的にも高く評価されている．また，パソコン統計解析ハンドブックシリーズや感度分析のためのソフトウェアの研究開発などにも力を注ぎ，開発した手法の広報活動も積極的に推進した．

統計学界への功績では，特に国際的な活躍が顕著であり，国際計算機統計学会，国際分類学会連合の役員を歴任し，2009年に国際計算機統計学会の会長に就任している．また，日韓統計会議では，長年に渡り中心的役割を果たした．国内では，日本統計学会の理事，評議員をはじめ統計関連学会の会長や役員を歴任したほか，学術審議会専門委員としても活躍した．教育面では，博士の学位を15人に授与するなど多くの有能な人材を社会へ輩出している．

同氏はこのような統計学に関わる研究・教育・学界活動を通じて我が国及び世界の統計学界の発展に多大な貢献があった．

主要業績：

１．Sensitivity analysis in Hayashi's second method of quantification, J. Japan Statist. Soc. 16（1986）, 44-60.（Tanaka, Y. and Tarumi, T.）

２．Sensitivity analysis in principal component analysis: Influence on the subspace spanned by principal components, Comm. Statist. -Theory Meth., 17（1988）, 3157-75.（Corrections: Comm. Statist.-Theory Meth., 18（1989）, 4305.）

３．Influential observations in principal factor analysis, Psychometrika 54（1989）, 475-485.（Tanaka, Y. and Odaka, Y.）

４．A general strategy of sensitivity analysis in multivariate methods, In "Data Science and its Applications"（Edited by Y. Escoufier et al.）, Academic Press（1995）, 117-131.

５．R-mode and Q-mode influence analyses in statistical modelling: Relationship between influence function approach and local influence approach, Computational Statistics & Data Analysis, 32（1999）, 197-218.（Tanaka, Y. and Zhang, F.）

［2］受賞者氏名：渡辺　美智子　氏

略歴：1981年　九州大学理学部文部教官助手，1986年　理学博士（九州大学），1988年　関西大

学経済学部講師，1989年　同助教授，1991年　東洋大学経済学部助教授，1997年　同教授，2012年慶應義塾大学大学院教授，現在に至る．
2007年～2011年　統計数理研究所客員教授，2006年～現在　放送大学客員教授，2009年～現在　独立行政法人統計センター理事（研究主幹担当）．

授賞理由：渡辺氏は，EM アルゴリズムや欠測値処理，潜在クラスモデルのマーケティング領域への応用モデルなど，数理統計・応用統計に関する論文・著書に加え，近年は，統計教育に関する論文・著書を多数執筆している．特筆すべきは，統計教育法に関する研究と統計教育の普及・発展への貢献である．2001年より現在まで日本統計学会統計教育委員会の委員として活動し，2003年から2010年にかけては同委員会委員長及び統計教育部会（現分科会）会長を務めた．その間，委員会での研究活動及び関連学協会での討議の結果に基づき，2005年に「21世紀の知識創造社会に向けた統計教育推進への要望書」をまとめ，文部科学省及び日本学術会議数理統計委員会に提出，新学習指導要領における統計必修化の契機を作るのに指導的役割を果たした．同時に，「マルチメディア統計百科事典」の制作と頒布，ICT を活用した統計資料・教材の開発・普及に努めた．また，統計教育方法論ワークショップやシンポジウムを毎年開催し，日本における統計教育実践研究者のネットワークの確立と統計教育研究領域の発展に大きく貢献した．国際的には，IASE 副会長（2002～2005），国際統計リテラシー・プロジェクトの National Correspondent（2005～現在）を務めるほか，国際的に活躍する統計教育関係者を日本に招聘してシンポジウムやワークショップを開くなど，日本と海外の統計教育研究者のネットワークの構築に貢献した．そのほか，学協会，政府機関などにおいて幅広く統計教育の発展・普及活動に従事している．

主要業績：

『21世紀の統計科学Ⅲ：数理・計算の統計科学』東大出版，2008（分担執筆）
『The EM Algorithm and Related Statistical Models (Statistics: A Series of Textbooks and Monographs)』CRC Press; Ⅲ版，2003（共著）
『経営科学のニューフロンティア－マーケティングの数理モデル』朝倉書店（2001）（分担執筆）
『EM アルゴリズムと不完全データの諸問題』多賀出版，2000（共著）
『インターネット時代の数量経済分析法』多賀出版，1999（共著）
知識創造社会を支える統計的思考力の育成：アクションに繋がる統計教育への転換，日本数学教育学会誌89（７），29－38，2007
マルチメディアを活用した統計教育の情報化に関する研究，放送大学研究年報25号，117－126，2007
メディアと統計リテラシー，「統計」56（５），21－25，2005
インターネット環境における統計科学普及のための教育用サイト構築の試み，「統計数理」49，241－260，2001（共著），ほか

３．第８回日本統計学会統計活動賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

受賞団体・活動名：公益財団法人 矢野恒太記念会，「日本統計図会」などの各種統計データブックの編集・刊行や統計関連団体の賛助等の統計に関する普及啓発活動への貢献

略歴：1953年３月　財団法人矢野恒太記念会設立（文部省所管）　日本国勢図会　第12版編集（発刊は国勢社．第11版までは，国勢社で編集・刊行），2011年　公益財団法人へ移行．

授賞理由：矢野恒太自身が昭和２年に発刊して以来，現在まで継続的に毎年発行されている「日本

国勢図会」は，日本を概括する広範な統計と平易な解説により，社会科を中心とする学校教育の現場において広く活用されているばかりでなく，エコノミスト，社会人にも広く利用されている．

この他に，「日本国勢図会」の国際統計版である「世界国勢図会」（昭和60年発刊），地域統計版である「データでみる県勢」（昭和63年発刊），主に小学校高学年から中学生向けに編集したジュニア版である「日本のすがた」（昭和45年発刊）などが，毎年発行されており，広く利用される統計集とその解説として，統計の有用性を社会的に発信している．

さらに，海外教育施設（全日制日本人学校，補習授業校および私立校）に対し，不足しがちな社会科教材資料を補完するため，昭和61年より毎年「日本国勢図会」「日本のすがた」「世界国勢図会」を寄贈し，海外子女教育の活動を賛助している．

また，統計の進歩や統計知識の普及に貢献した個人，団体を表彰する『大内賞』（主催：大内賞委員会）や全国の小学生，中学生，高校生等を対象に実施される『統計グラフ全国コンクール（主催：公益財団法人統計情報研究開発センター）』等の普及・啓発活動への賛助を行っている．

参考資料：

「日本国勢図会」 昭和２年初版発刊　毎年６月発行（年刊）

「世界国勢図会」 昭和60年初版発刊　毎年９月発行（年刊）

「データでみる県勢」 昭和63年初版発刊　毎年12月発行（年刊）

「日本のすがた」 昭和45年初版発刊　毎年３月発行（年刊）

「数字でみる日本の100年」 昭和56年初版発刊（不定期刊行）

４．第８回日本統計学会統計教育賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

［1］受賞者氏名：藤原　大樹　氏

略歴：1999年　横浜国立大学教育学部卒業，2001年　横浜国立大学大学院教育学研究科修了，2001年　横浜市立中学校教諭，2009年～　横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校教諭

授賞理由：藤原大樹氏は統計教育授業実践を中学校で精力的に展開し，公開授業や学会発表を通してモデル授業の普及に貢献している．特に従来の知識供与型の授業に終始するのではなく，国際的に重要視されている統計的思考力の育成まで意識されており，データの選び方・レポート等の課題の評価方法においても問題解決力育成に注意が払われている．その成果はこれまでの学会発表や講演，公開授業などで紹介され，高い評価を受けている．またICTの活用も踏まえた授業展開も意識し，新時代の統計教育方法として新課程の目的と合致したものである．

日本統計学会統計教育分科会主催の第８回「統計教育の方法論ワークショップ」では，単なる「知る」だけの授業ではなく，「活用・習得」を意識した授業展開の授業提案を報告し，その内容は今後の中学校における統計教育の模範例になると高く評価され，同ワークショップで発表された教育方法事例報告の中で最も高い評価を得た．これらのことから藤原氏の統計教育への取り組みは，統計教育賞にふさわしいものと考える．

主要業績：

①藤原大樹（2012）「統計的思考力の育成を目指した中１「資料の散らばりと代表値」の単元指導と評価に関する事例的研究」，平成23年度横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校個人研究論文．（印刷中）

②藤原大樹・松元新一郎（2012）「「資料の活用」授業づくり講座　統計の指導を豊かにするために

4　ヒストグラムや代表値などの知識・技能の習得（１）」,「教育科学数学教育 No.651」，明治図書，pp.86－91.
③藤原大樹・松元新一郎（2012）「「資料の活用」授業づくり講座　統計の指導を豊かにするために
5　ヒストグラムや代表値などの知識・技能の習得（２）」,「教育科学数学教育 No.652」，明治図書，pp.86－91.
④藤原大樹（2011）「公開授業第１学年学習指導案「Ruler Catch ～反応時間～」」，日本数学教育学会誌第93回総会特集号（神奈川大会），pp.252－253.
⑤藤原大樹（2011）「生の数値を用いて仮平均の考え方のよさを実感させる指導と評価についての事例的研究」，第44回数学教育論文発表会論文集，pp.333－338.
⑥藤原大樹（2010.9.24）「Organized Session B「数学教育における統計」」数学教育学会秋季例会（名古屋大学）
⑦藤原大樹（2012.1.18）「京都市平成23年度（中・総）数学科教員指導力向上講座」.
⑧平成22年５月～平成23年３月　国立教育政策研究所「「評価規準，評価方法等の改善に関する調査研究」協力者会議（中学校・数学）」協力者.
⑨平成22年　文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」研究協力者.
⑩平成21年11月　第２回《数学・授業の達人》大賞（東京理科大学数学教育研究所主催）優秀賞受賞.

［２］受賞団体　活動名：岐阜県総合企画部統計課・～学校現場における出前講座「データ活用講座」の実践～

活動歴：平成23年７月より，新学習指導要領に統計の内容が盛り込まれたことを踏まえ，次代を担う若い世代に，統計に慣れ親しみ，データの分析・活用の実践やデータからみた岐阜県の特徴やじまんなどについて学んでもらうことを目的に，県内の小中学校，高校や大学等に統計課職員が出向く出前講座を実施．平成24年７月時点で，15の学校，約1,100名が受講．内訳：小学校…１校（31名），中学校…８校（950名），高校…１校（40名），大学…２校（65名）.

授賞理由：本活動は，以下の特筆に値する実績を示した：

１．公的統計の専門知識と経験を有する統計課職員自らが，児童・生徒が統計に慣れ親しむことができる教材を開発し継続的に学校現場で授業を展開する方式を確立したことは，他の都道府県に対して統計教育の拡充に向けた模範的な取組み事例となった.

２．新学習指導要領において必修化された「資料の活用」,「データの分析」内容との整合性を考慮し，人口など地域の実態を示すデータからグラフ作成・読み取りを行う体験型の統計的活動の教授法を示したことは，新指導要領の円滑な実践の支援となった.

３．人口，自然，産業など各種統計データから岐阜県それぞれの地域の特徴を知る統計教育教材を開発し，データに裏付けられた地域（ふるさと）の強み，岐阜県の特徴や強みや課題等を学習する機会を提供することによって，児童・生徒・学生にふるさと岐阜に対する関心を深め，ふるさとへの誇りを醸成できた.

県民への統計に関する理解増進および統計教育の普及促進に向けたこれらの貢献は顕彰するに相応しいものである.

参考資料：

①　岐阜新聞（2011年７月５日，７月23日），中日新聞（2011年10月14日，2012年３月23日）等報道資料；岐阜市立陽南中学校・県立可児高等学校・池田町立池田中学校・岐阜市立青山中学校
②　岐阜県教育委員会広報用資料

５．第６回日本統計学会研究業績賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

［１］受賞者氏名：大森　裕浩　氏・渡部　敏明　氏（共同受賞）

略歴（大森　裕浩　氏）：1985年　東京大学経済学部卒業，1992年　ウィスコンシン大学マディソン校大学院統計学部 Ph.D. コース修了（Ph.D. 取得），同年　オハイオ州立大学コロンバス校統計学部専任講師，1993年　千葉大学法経学部専任講師，1994年　同　助教授，1996年　東京都立大学経済学部助教授，2001年　同　教授，同年　東京大学大学院経済学研究科助教授，2009年　同　教授

略歴（渡部　敏明　氏）：1986年　東京大学経済学部経済学科卒業，1993年　イエール大学大学院経済学研究科修了（経済学 Ph.D.），1994年　東京都立大学経済学部助教授，2001年　同　教授，2005年　日本銀行金融研究所シニアフェロー（2006年以降は兼業），2006年　一橋大学経済研究所教授

授賞理由：大森氏と渡部氏はマルコフ連鎖モンテカルロ法を用いたベイズ推測の応用研究を精力的に行っており，特に計量ファイナンスにおいて重要な意味を持つ非対称性のある確率的ボラティリティ変動モデルとその実現ボラティリティを用いた拡張，またそれらに対する計算効率の良い推定アルゴリズムの開発の分野で顕著な功績を残している．両氏は，Shephard and Pitt（1997）により提案された非ガウス状態空間モデルの状態変数の条件付き事後分布からの効率的なサンプリング法であるマルチムーブサンプラーの問題点を指摘，修正し，非線形非ガウス状態方程式及び観測・状態方程式の誤差の間に相関がある場合等を含む，非常に広汎な多変量非線形非ガウス状態空間モデルに対して適用可能なアルゴリズムへと拡張した．これらは優れた研究業績であり，日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいものである．

主要業績：

１．Takahashi, M., Y. Omori, and T. Watanabe（2009）. Estimating stochastic volatility models using daily returns and realized volatility simultaneously. Computational Statistics and Data Analysis, 53-6, 2404-2426.

２．Omori, Y. and T. Watanabe（2008）. Block sampler and posterior mode estimation for asymmetric stochastic volatility models. Computational Statistics and Data Analysis, 52-6, 2892-2910.

３．Watanabe, T. and Y. Omori（2004）. A multi-move sampler for estimating non-Gaussian times series models: Comments on Shephard and Pitt（1997）. Biometrika, 91-1, 246-248.

［２］受賞者氏名：青嶋　誠　氏・矢田　和善　氏（共同受賞）

略歴（青嶋　誠　氏）：1986年　東京理科大学理学部応用数学科卒業，1992年　東京理科大学大学院理学研究科修了（博士（理学）），1994年　東京学芸大学教育学部助教授，1999年　筑波大学数学系助教授，2007年　筑波大学大学院数理物質科学研究科教授，2011年　筑波大学数理物質系教授，現在に至る．

略歴（矢田　和善　氏）：2005年　筑波大学第一学群自然学類卒業，2010年　筑波大学大学院数理物質科学研究科修了（博士（理学）），2010年　筑波大学大学院数理物質科学研究科助教，2011年　筑波大学数理物質系助教，現在に至る．

授賞理由：青嶋・矢田の両氏は，高次元統計的推測や高次元小標本データ解析などの分野で精力的に研究活動をおこなっており，優れた研究成果を発表し続けている．顕著な業績として，高次元データに対する高次元漸近理論の構築，高次元小標本データ空間の幾何学的表現の発見，幾何学的表

現に根ざした新しい統計的推測の理論と方法論の開発，高次元データ解析における理論的な精度保証と計算コストの著しい削減などが挙げられる．両氏は，DNA マイクロアレイデータなどに見られるような高次元小標本（次元数が優に10,000を超える，標本数は100程度）における様々な推測に，簡便でかつ精度を保証する方法論を提供し，従来の多変量解析の枠組にない極めて独創的かつ先駆的な研究を展開している．両氏は，理論から数多くの優れた研究業績を挙げ，革新的かつ有意義な方法論を生み出し，理論と応用の両面から統計学界に多大な貢献をしていると認められ，日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいと考える．

主要業績：

［１］Two-stage procedures for high-dimensional data. Sequential Anal.（Editor's special invited paper）, 30, 356-399, 2011.

［２］Asymptotic second-order consistency for two-tage estimation methodologies and its applications. Ann. Inst. Statist. Math., 62, 571-600, 2010.

［３］Effective PCA for high-dimension, low-sample-size data with noise reduction via geometric representations. J. Multivariate Anal., 105, 193-215, 2012.

［４］Effective PCA for high-dimension, low-sample-size data with singular value decomposition of cross data matrix. J. Multivariate Anal., 101, 2060-2077, 2010.

［５］PCA consistency for non-Gaussian data in high dimension, low sample size context. Commun. Statist. Theory Methods, 38, 2634-2652, 2009.

６．第５回日本統計学会統計出版賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

［1］受賞出版物：Multivariate Statistics: High-Dimensional and Large-Sample Approximations，2010年出版，Wiley,Hobeken,N.J.

受賞者氏名：藤越　康祝　氏・Vladimir V．Ulyanov　氏・清水　良一　氏（共同受賞）

略歴（藤越　康祝　氏）：1966年広島大学大学院理学研究科修士課程修了，1978年広島大学理学部教授，2005年広島大学大学院理学研究科名誉教授

略歴（Vladimir V．Ulyanov　氏）：1975年モスクワ大学大学院応用数学修士課程修了，1998年モスクワ大学数理統計学科教授

略歴（清水　良一　氏）：1958年東京大学教養学部卒，1985年統計数理研究所教授，2002年統計数理研究所及び総合研究大学院大学名誉教授

授賞理由：本書は，様々な多変量解析においてよく用いられている大標本漸近理論と最新の研究結果である高次元漸近理論についてまとめたものである．扱っている多変量解析は多変量分散分析・多変量回帰分析・判別分析・主成分分析・正準相関分析・成長曲線分析などであり，それぞれついて大標本及び高次元漸近理論を与え，さらにそれらの関連性について述べ，高次元漸近理論の有用性を示唆している．また本書では，理論的に重要な漸近展開近似の誤差限界や，モデル選択規準に基づく変数選択法も扱っている．大標本及び高次元漸近理論を同時に扱った書籍はなく，そのため本書の内容はとても貴重である．

著者らは，これらの分野に精通しており，また多くの研究業績をあげている．そのため，本書は各分野での研究成果が体系的にまとめられており，この分野で研究をする際に大変有用である．また，難解な理論についても本質的に重要なところに焦点をあて読者にとって分かりやすく書かれている．さらに実際のデータを使った分析例もあり実用的でもある．

このような理由から，研究的にも教育的にも優れた図書であると考え日本統計学会出版賞として顕彰するのに相応しいと考える．

主要業績：

１．藤越康祝・杉山高一（2012）．多変量モデルの選択．朝倉書店．

２．Fujikoshi, Y. and Sakurai, T.（2009）. High-dimensional asymptotic expansions for the distributions of canonical correlations. J. Multivariate Anal., 100, 231-242.

３．Fujikoshi, Y., Ulyanov, V. V. and Shimizu, Y.（2005）. Error bounds in asymptotic expansions of multivariate scale mixtures and their applications to generalized Hotelling's T02. J. Multivariate Anal., 96, 1-19.

４．Shimizu, R. and Fujikoshi, Y.（1997）. Sharp error bounds for asymptotic expansions of the distribution functions of scale mixtures. Ann. Inst. Statist. Math., 49, 285-297.

［2］受賞出版物：『新版 日本長期統計総覧』第１巻～第５巻，2006年

受賞団体名：財団法人　日本統計協会

略歴：財団法人日本統計協会の前身は，1876年設立の統計学社と1878年設立の東京統計協会である．1944年，両団体が合併して財団法人大日本統計協会となり，さらに1947年，日本統計協会に名称を変更した．日本統計協会は，統計調査の結果報告書等の提供のほか，統計知識や技術の普及に関する活動を行っている．普及に関する活動は，月刊誌『統計』の発行や各種研究会の開催，統計研究に対する研究助成，「統計活動奨励賞」の授与，懸賞統計論文の募集や表彰など，多岐にわたっている．

授賞理由：『新版 日本長期統計総覧』は，昭和62年に日本統計協会が刊行した『日本長期統計総覧』の年次を延長するとともに，収録対象を拡大して取りまとめたものである．人口，経済，社会，文化などの全31分野の統計は，明治初期から平成に至るまでの長期にわたって全５巻に編成されており，すべての統計表は付録の CD-ROM に収録されている．

最新の統計調査の結果は e-Stat などインターネット上でも公開されており，統計表を利用する環境は整備されてきた．しかしながら，過去の統計調査の結果についてはインターネット上に公開されていない場合がある．このため，長期間の統計を整理した本書は，社会や経済の活動を時系列で分析する際の基礎資料として価値が高い．また，学生や生徒が長期統計を探索して利用するといった教育面においても，本書は有益な図書であると言える．

このように，統計学及び関連分野における研究や教育に有意義な本書は「日本統計学会出版賞」として顕彰するに相応しいものである．

７．第26回日本統計学会小川研究奨励賞について

日本統計学会長　竹村　彰通（東京大学）

第26回日本統計学会小川研究奨励賞の受賞者と受賞論文は，以下のとおり決定いたしました．

受賞者氏名：清　智也　氏　（慶應義塾大学理工学部数理科学科）

受賞論文：Efron's Curvature of the Structural Gradient Model, Journal of the Japan Statistical Society Vol.41 No.1 51-66

受賞論文の評価：統計的モデリングにおいて，指数型分布族は最も基本的で有用な分布族であるが，基準化定数の評価が困難な場合があり，そのような場合には分布の推定なども複雑となる．

清智也氏が提唱する勾配モデルは，最適輸送理論に基づく統計モデルであり，この困難を克服するモデルとして有望なモデルである．受賞論文では，勾配モデルとそれに対応する混合分布モデルの統計的曲率 (Efron's curvature) を帰無分布のもとで比較し，勾配モデルのほうが対応する混合分布モ

デルより小さい統計的曲率を持つことを証明している．この結果は勾配モデルのほうが混合分布モデルよりも指数型分布族に近い性質を持つことを示唆している．勾配モデルの提唱とその性質の解明は非常に独創性の高い研究であり，受賞論文は日本統計学会賞小川研究奨励賞にふさわしい論文である．

8．2012年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報）

連合大会
実行委員会委員長　水田正弘（北海道大学）
プログラム委員長　宿久　洋（同志社大学）
運営委員会委員長　瀬尾　隆（東京理科大学）

2012年度統計関連学会連合大会の第一報，第二報に続き，「第三報」をお届けします．本報が本大会に関する最後のご案内です．本報は連合大会について簡潔にまとめを行い，皆様の便宜をはかりたいと思います．今後，詳細プログラムや変更事項は，連合大会のウェブページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2012/

に掲載いたしますので，どうぞご参照ください．

すでに５月８日（火）から６月５日（火）まで講演申し込みを受け付けいたしました．おかげさまで，企画セッション講演83件（企画セッション21），コンペティション講演27件，一般講演248件の申し込みを頂きました．これに加えて，大会特別セッション５講演，ソフトウェアセッション４講演があり，総講演数367件となりました．誠にありがとうございました．

１．日程など

本大会に関する今後の日程は次の通りです．

大会開催日程：2012年９月９日（日）から12日（水）までの４日間

９月９日：チュートリアルセッションと市民講演会（かでる２・７　札幌市中央区）

９月10〜12日：本大会（北海道大学　高等教育推進機構，札幌市北区）

懇親会：９月10日（月）18：00〜
サッポロビール園

＊本大会１日目ですので，ご注意ください．

事前参加申し込み：７月18日（水）９：00〜８月21日（火）17：00

※原稿提出は７月10日（火）17：00に締め切りました．

２．会場

本大会は，初日の９月９日（日）に，チュートリアルセッションと市民講演会を，北海道庁と北海道大学植物園の間にある「かでる２・７」で開催します．２日目から４日目の９月10日（月）から12日（水）に，各種セッション講演を，北海道大学札幌キャンパスの高等教育推進機構で行います．

- かでる２・７　〒060-0002 札幌市中央区北２条西７丁目　電話：011-204-5100
- 北海道大学高等教育推進機構　〒060-0817 札幌市北区北17条西８丁目　電話：011-716-2111（代表）

（１）「かでる２・７」へのアクセスは，連合大会ウェブページの「会場」欄をご参照下さい．JR 札幌駅から徒歩12分，地下鉄さっぽろ駅から徒歩７分，地下鉄大通駅から徒歩９分です．

（2）「北海道大学高等教育推進機構」へのアクセスも，ウェブページの「会場」欄をご参照下さい．地下鉄南北線 北18条駅から徒歩数分です．

（3）２日目以降の会場は，北海道大学高等教育推進機構のＥ棟，Ｎ棟，Ｓ棟の11教室を使います．

Ｅ棟は機構の正面玄関のある建物で，Ｅ棟とＮ棟は屋内でつながっています．また，Ｅ棟とＳ棟は隣接しています．

（4）保育室は，高等教育推進機構内に設ける予定です．

（5）昼食は，Ｓ棟に隣接した大学生協北部食堂でおとりいただけます．

（6）懇親会は，例年より１日早い，９月10日（月）の夕方にサッポロビール園で行います．

（7）節電要請期間にあたるため，各日程の終了時間を，原則として17時より前とさせて頂く予定です．各セッションの開始時間が例年より早くなりますので，ご注意ください．

３．参加申し込み

大会に先立って，事前参加申し込みと懇親会申し込みがウェブページで始まっております．連合大会ウェブページの「申し込み」欄よりお手続き下さい．申し込み期間は2012年７月18日（水）午前９時より８月21日（火）17時までです．カード決済と銀行振り込みがご利用いただけます．事前申し込みは，当日受付より大幅な割引がございますので，ぜひご利用下さい．

大会参加費（講演報告集代を含む），チュートリアルセッション参加費（資料代を含む），懇親会参加費とも，会員（共催６学会の学会員）・学生（学会員，非会員を問わず）・学生以外の非会員により参加費が異なります．詳しくはウェブページの「大会詳細」をご覧下さい．市民講演会は無料です．

なお，非会員の招待者（企画セッション講演者，討論者等）の方を除き，すべての講演者（一般・企画セッション・コンペティション講演を問わず）の方も参加申し込みのお手続きが必要です．お忘れなきよう，よろしくお願いいたします．

懇親会申込については，会場の都合で，190人に達した時点で締め切りとさせて頂きます．ジンギスカンはもちろん，タラバガニ・ズワイガニ，お寿司，その他約20品目食べ放題，飲み放題となっております．事前予約で制限人数に達した場合，当日受付はお受けできませんので，お早めにお申し込みください．

４．保育室

今年度も保育室を開設します．

設置期間：９月10日（月）～12日（水）（９日は設置しません）

設置時間：プログラム開始30分前から終了30分後まで

場所：原則として，高等教育推進機構内

対象：原則０歳児から６歳児（小学校入学前）まで

保育者：保育士

利用料金：１日2,000円

締め切り：７月30日（月）

申込先：小宮由里子（実行委員）komiya_at_iic.hokudai.ac.jp（_at_ を @ にご変更ください）

ご利用を希望される方は，できるだけ早くメールにて上記までご連絡下さい．お問い合わせの際には，暫定の利用日時とお子様の年齢をご記入下さい．詳細な利用規定や正式の申込書・同意書については，後日お送りいたします．

その他，ご質問・ご要望がありましたら，上記メールアドレスにご連絡下さい．

５．大会プログラム

プログラムおよび大会案内はウェブページで公開するとともに（８月上旬に公開予定），各学会にもお知らせいたします．ウェブページにはHTML 版および PDF 版を用意いたします．プログラムは講演報告集にも掲載します．なお，各学会を通じての，印刷物冊子配布はございませんのでご注意下さい．

なお，講演者および共同発表者の所属は講演申し込み時に入力頂いたものです．

６．チュートリアルセッション

チュートリアルセッションは２つのテーマを用意いたしました．

日時：2012年９月９日（日）13：00～16：00（一部～18：00）
会場：かでる２．７　820研修室，520研修室
受付開始：12：30

テーマＡ：「主成分分析の行列的基礎と非計量・三相配列・因子分析への発展」
講演者：足立浩平（大阪大学）
場所：820研修室
時間：13：00～16：00

テーマＢ：「テキストマイニングの活用」
講演者：八木征子（数理システム），神田晴彦（野村総合研究所）
保田明夫（富士通エフ・アイ・ビー・システムズ）
場所：520研修室
時間：13：00～18：00

２つの講演は同じ時間帯に開催されますので，どちらか一方のテーマをお選びください．なお，途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金はかかりません．

事前参加受付は，2012年度統計関連学会連合大会のウェブページの「申し込み」欄から手続きができます（８月21日（火）17時まで）．あらかじめ参加費を納めていただく場合は，割引が受けられます．学生には特に大幅な割引があります．当日参加も受け付けます．当日受付の場合，参加費（資料代含む）は，会員（共催，協賛の６学会の会員）4,000円，学生（会員・非会員を問わず）4,000円です．学生以外の非会員は7,000円です．

今回，テーマＢについてはハンズオンでのチュートリアルとなります．先着50名まではハンズオンでの受講が可能です．それ以外の方については，聴講のみの受講となります．ハンズオンで受講される方は，当日午前にソフトウェアの事前インストールをして頂くことになります．詳細については大会 HP でご確認を頂いた上で参加されるようお願いいたします．

７．市民講演会

今年の市民講演会は，以下のテーマで２名の先生方にご講演をお願いいたしました．多くの方々のご参加をお待ちしております．参加費は無料です．

日時：2012年９月９日（日）16：30～18:00
会場：かでる２．７　820研修室
受付開始：15：30

テーマ１：「統計検定：出題傾向と結果分析」
講演者：岩崎　学（成蹊大学）・吉田清隆（成蹊大学）
時間：16：30～17：15

テーマ２：「新薬の開発に統計学はどのように利用されているのか」
講演者：大森　崇（同志社大学）・安藤友紀（医薬品医療機器総合機構）
時間：17：15～18：00

８．企画セッション等一覧

大会特別セッションとソフトウェア・デモセッションおよび21件の企画セッションを設けます．各セッションが配置されている時間帯，会場，テーマとオーガナイザー氏名（所属）は以下の通りです．詳細プログラム，テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のウェブページをご覧下さい．

大会特別セッション名とオーガナイザー
９月11日（火）17：00－19：00

福島第一原子力発電所事故の放射能影響に関するデータに基づく俯瞰：椿　広計（統計数理研究所）

概要：本セッションでは，１．福島第一原発から放出された放射性物質がどの程度あったのか，２．どのように大気中に拡散し，土壌・海上に沈降したのか，３．そして人々はどのような暴露を受けた，あるいは受けつつあるのか，４．そしてその健康影響はどのようなものであるかをそれぞれの分野の専門家に紹介いただき，この問題に関する今後の統計関連学会連合の取り組みについて議論を進めたい．

企画セッション名とオーガナイザー

９月10日（月）９：30－11：30

ミクロデータの二次利用　その仕組みと研究活用事例：渡辺美智子（慶応義塾大学）

統計学初級中級講座「マルチレベル解析と繰り返し測定データの解析」：岩崎　学（成蹊大学）

医薬データの統計解析：石橋　雄一（(株）スタットラボ），水田　正弘（北海道大学）

９月10日（月）12：30－14：30

量子統計：理論的な進展と物理実験への応用：田中　冬彦（東京大学）

日本統計学会各賞受賞者講演：岩崎　学（成蹊大学）［16：45まで］

スポーツと統計科学の融合：酒折　文武（中央大学），田村　義保（統計数理研究所）

日本計量生物学会奨励賞受賞者講演：手良　向聡（京都大学）［13：50まで］

９月10日（月）14：45－16：45

確率微分方程式モデルの統計解析：内田　雅之（大阪大学）

クラウドコンピューティングと大規模データ処理：棟朝　雅晴（北海道大学），水田　正弘（北海道大学）

日本計量生物学会シンポジウム「放射線の健康影響に対する生物統計家の取り組み－これまでの成果と新たなる展開－」：和泉　志津恵（大分大学）［14：05から］

９月11日（火）９：30－11：30

JSS-KSS-CSA International Session I：Analysis of data with correlated errors：Jinfang Wang（千葉大学），Taesung Park（Seoul National Univ.），Ming-Yen Cheng（National Taiwan Univ.）

ファイナンス統計学における漸近的方法とその実装：吉田　朋広（東京大学）

日本分類学会シンポジウム「データ分析の理論と応用」：栗原　考次（岡山大学）

９月11日（火）12：30－14：30

JSS-KSS-CSA International Session II：Inference for high dimensional data：Jinfang Wang（千葉大学），Taesung Park（Seoul National Univ.），Ming-Yen Cheng（National Taiwan Univ.）

高等学校の統計教育の改革と大学入試での取り組み：深沢　弘美（東京医療保健大学）

金融のリスク管理：三浦　良造（一橋大学）

応用統計学会 学会賞受賞者講演：黒木　学（統計数理研究所），永田　靖（早稲田大学）

９月11日（火）14：45－16：45

JSS-KSS-CSA International Session III：Computational statistics：Jinfang Wang（千葉大学），Taesung Park（Seoul National Univ.），Ming-Yen Cheng（National Taiwan Univ.）

教養教育における統計教育とその評価方法：藤井　良宜（宮崎大学）

非対称分布の統計学の理論と実際：清水　邦夫（慶應義塾大学）

９月12日（水）９：30－11：30

資金循環統計～拡充の成果と課題：櫻庭　千尋（日本銀行）

文部科学省 数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ：統計科学の産業界への応用

９月10日（月）９：30－16：45，11日（火）９：30－14：30

企画セッションのうち，「医薬データの統計解析」，「スポーツと統計科学の融合」，「クラウドコンピューティングと大規模データ処理」，「ファイナンス統計学における漸近的方法とその実装」，「金融のリスク管理」については「文部科学省 数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ：統計科学の産業界への応用」として実施し，参加費無料といたします．

趣旨：統計科学は，データに基づく実証的学術全般を支える基盤的数理科学とし130年以上にわたり独自の発展を遂げると共に，計量生物学，計量心理学，計量経済学などの学術分野を創生してきた．本ワークショップでは，情報爆発と呼ばれるあらたなデータ環境の中で，先端的な統計科学的方法論が学術創生を超えて，産業界全般にどのようなインパクトを与えているのか，あるいは与えうるのかについて，産業分野としてこれまで統計科学の産業展開が世界的に見ても活発な医薬品産業・ファイナンス分野，この10年間に急速に産業展開が加速しているスポーツ産業を取り上げ，わが国の取り組みのあるべき姿を産学連携で議論する場を提供する．

９．コンペティション

今年度も若手会員の質の高い研究・発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します．コンペティション講演セッションは，９月10日（月）～11日（火）に行います．発表時間は質疑を含めて20分とさせていただきます．なお表彰式は11日の大会特別セッション終了後に行います．詳細は連合大会のウェブページ［コンペセッションの概要について］をご覧ください．

以上

９．定時社員総会報告

定時社員総会報告

日時　2012年６月16日（土曜日）　13：30－15：30

場所　東大本郷工学部６号館103室

出席者：竹村彰通会長；代議員：岩崎学，大屋幸輔，川崎茂，狩野裕，栗木哲，栗原考次，駒木文保，西郷浩，瀬尾隆，竹内光悦，馬場善久，舟岡史雄，前田忠彦，美添泰人，吉田朋広，渡部敏明，渡辺美智子（以上17名，委任状13通，議決行使書９通）（オブザーバー：上野玄太，大野忠士）

冒頭，竹村会長より定足数確認後，開会宣言がなされ，オブザーバー２名の出席が承認された．また，竹村会長より議事録署名人として栗木哲，前田忠彦両代議員が提案され，承認された．

審議事項

第１議案　2011年度事業報告及び決算の承認に関する件－定款第12条（５）

竹村会長より，資料に基づき，2011年度の事業報告と決算報告があり，美添監事から監査報告があり，審議の結果承認された．

第２議案　質保証委員会，基準委員会および質保証推進委員会の運用規則の制定に関する件－定款細則第６条３

竹村会長より，資料に基づき，質保証委員会，基準委員会および質保証推進委員会の運用規則の制定について提案があり，審議の結果，質保証委員会および基準委員会の運用規則について字句修正の上承認し，質保証推進委員会の運用規則について理事会にて再度審議することを了承した．

報告事項（理事会報告）

１．会員の入退会

岩崎理事長より，回覧資料に基づき，入退会員の報告があった.

２．資格検定について

岩崎理事長より，資格検定について報告があり，美添統計質保証委員会委員長より，資料に基づき，2011年度の資格検定の状況と2012年度の資格検定の見通しとについて報告があった.

報告事項（委員会報告）

１．常設委員会における委員の交代について

岩崎理事長より，企画・行事委員会が佐藤美佳委員より山本渉委員と熊谷悦生委員に交代した（2012.4.1付け）ことについて報告があった.

２．2012年連合大会について

岩崎理事長より，連合大会における日本統計学会の企画セッションの案が報告された.

３．2012年３月開催の春季集会に関する報告

岩崎理事長より，春季集会が無事に終了したことが報告された.

４．日本統計学会各賞受賞者について

竹村会長より，資料にもとづき，学会賞各賞の受賞者の紹介と受賞理由が報告された.

５．2012年度欧文誌出版助成（科研費・研究成果公開促進費）の交付内定について

岩崎理事長より，2012，2013年度の欧文誌の出版助成（科研費）の交付内定（50万円，50万円）について報告があった.

６．ウェブ名簿閲覧システムの運用開始について

岩崎理事長より，ウェブ名簿閲覧システムの運用が４月から開始されたとの報告があった.

報告事項（その他）

１．特別委員会からの報告

［学会活動特別委員会］

岩崎理事長（鎌倉委員長の代理）から，特にないとの報告があった.

［学会組織特別委員会］

狩野代議員（委員長）から，特にないとの報告があった.

［統計教育委員会］

竹内代議員（委員，藤井委員長の代理）から，資料に基づき，統計教育委員会の開催状況と連合大会における企画セッションの案，統計教育の方法論ワークショップ，統計教育活動について報告があった.

２．大学間連携共同事業への統計分野からの応募について

竹村会長より，平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」の申請（「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」）の進捗状況について報告があった.

３．次回日程等

竹村会長より，役員協議会を2012年９月９日（日）午後６時30分よりかでる２・７　720号室にて開催するとの報告があった.

４．その他

（１）竹村会長より，日本統計学会主催，日本経済新聞社人材・教育事業本部共催，統計関連学会連合協賛によるシンポジウム（「社会で求められる統計力－ビジネスリテラシーとしての統計と統計教育」）について報告があった.

（２）岩崎理事長より，次回の春季集会が，2013年３月３日に学習院大学で開催されるとの報告があった.

（３）複数の代議員より，ISI 香港大会（2013年８

一般社団法人　日本統計学会

2011 年度事業報告

(2011.4.1～2012.3.31)

０．学会の動向

日本統計学会が今までの任意団体より一般社団法人として本格的に事業を行うこととなった。竹村彰通会長，岩崎学理事長を含む 11 名の理事と 3 名の監事，および各種委員会における委員の運営により特段の問題もなく 1 年を終えることができた。新たな事業として「統計検定」を実施した。このことも含め，統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2012 年 3 月 3 日現在の会員の数は 1,455 である。

名誉会員 18，　正会員 1,364，　学生会員 54，　賛助会員 13，　団体会員 6　(合計 1,455)

Ⅰ．出版編纂事業

１．欧文誌の発行

欧文誌 2 号[Vol.41 No.1（6 月），No.2(12 月)]を発行した。

内訳は原著論文 12 編，全 226 ページであった。

アーカイブのオンライン公開を行った。

２．和文誌の発行

和文誌 2 号[第 41 巻シリーズ J 第 1 号(9 月)，第 2 号(3 月)]を発行した。

内訳は原著論文 5 編，特集 11 編，受賞者特別寄稿論文 3 編，書評 6 編，その他を合わせ全 490 ページであった。

アーカイブのオンライン公開を開始した。

３．会報の発行

No.147（4 月），No.148（7 月），No.149（10 月），No.150（1 月）を発行した。

Ⅱ．内外学界交流事業

１．日本統計学会第 79 回大会の開催

2011 年 9 月 4 日（日）～9 月 7 日（水），九州大学・伊都新キャンパスにおいて，統計関連学会連合大会の一環として開催した。

企画セッションとして，日本統計学会会長講演（各賞授賞式，会員集会），日本統計学会各賞受賞者講演，統計学初級中級講座「統計学的因果推論入門」を企画した。

２．春季集会の開催

2012 年 3 月 4 日（日）に第 6 回春季集会を一橋大学において開催した。参加者は 158 名であった。

３．第 8 回 統計教育の方法論ワークショップの開催

2012 年 3 月 2 日（金），3 日（土）に第 8 回 統計教育の方法論ワークショップを一橋大学において開催した。参加者は約 200 名であった。

４．研究部会の活動

2012 年度より活動を開始する部会を募集したが応募はなかった。

５．研究分科会の活動

現在，以下の分科会が活動中である。

「スポーツ統計分科会」（田村義保主査：2009 年 6 月発足，2013 年 5 月終了予定）

「金融の計量リスク管理分科会」（三浦良造主査：2009 年 9 月発足，2013 年 8 月終了予定）

「ベイズ分析研究分科会」（繁桝算男主査：2010 年 11 月発足，2014 年 10 月終了予定）

「統計教育分科会」（竹内光悦主査：2010 年 12 月発足，2014 年 11 月終了予定）

「計量経済・計量ファイナンス分科会」（永井圭二主査：2010 年 12 月発足，2014 年 11 月終了予定）

６．2011 年統計検定の実施

2011 年 11 月 20 日（日）に日本統計学会が主体となり，(財) 統計研究会および (財) 統計情報研究開発センターとの共催事業として 2011 年統計検定を実施した。2 級，3 級，4 級，統計調査士，専門統計調査士の受験申込者数の合計は 1,210 名であった。

Ⅲ．会員関係事業

１．賞の授与

学会活動の活性化促進のため，以下の賞を授与した。

第 16 回日本統計学会賞：井出 満，早川 毅

第 7 回日本統計学会統計活動賞：佐藤 整尚

第 7 回日本統計学会統計教育賞：

佐藤 寿仁，JST 理科ねっとわーく・デジタル教材

第 5 回日本統計学会研究業績賞：久保川 達也

第 4 回日本統計学会出版賞：該当なし

第 25 回日本統計学会小川研究奨励賞：大西 俊郎

2．各種委員会の活動

社員総会（2011 年 6 月，2012 年 3 月）を開催した。

理事会（2011 年 5 月，7 月，12 月，2012 年 2 月）を開催した。

役員協議会（2011 年 9 月）を開催した。

その他の各種委員会を適宜，開催した。

3．広報活動の充実

メーリングリストの使用やホームページの充実により，各種情報発信を促進した。

特に，ホームページの内容や英文のホームページを充実させた。

4．会員名簿を発行し希望者に送付した（2012 年 2 月）。

ウェブ上の名簿閲覧システムの開発に着手した。

5．入会者の拡大

准会員（仮称）について理事会，役員協議会にて検討した。

2011年度決算書　（2012年3月31日現在）

貸借対照表　（単位　円）

科目	借方 期首	借方 期末	科目	貸方 期首	貸方 期末
I. 資産の部			II. 負債の部		
現預金	9,127,095	7,191,665	未払い金	0	0
			名簿作成積立金(注3)	0	0
			負債合計	0	0
貸付金(注1)	0	4,500,000	III. 正味財産の部		
			指定正味財産	0	0
流動資産合計	9,127,095	11,691,665	一般正味財産	21,579,793	20,213,191
学会活動積立金(注2)	3,500,000	3,500,000	（うち基本財産への充当額）	0	0
名簿作成積立金(注3)	600,000	0			
60周年記念基金	7,387,726	4,056,487			
75周年記念基金	964,972	965,039			
特定資産合計	12,452,698	8,521,526	（うち特定財産への充当額）(注2)(注3)	12,452,698	8,521,526
固定資産合計	12,452,698	8,521,526	**正味財産合計**	21,579,793	20,213,191
資産合計	21,579,793	20,213,191	**負債及び正味財産合計**	21,579,793	20,213,191

(注1) 貸付金は一般財団法人統計質保証推進協会宛 4,500,000円

(注2)学会活動積立金は公益法人会計上、(借方)特定資産 (貸方)特定財産とした。

(注3)名簿作成積立金は公益法人会計上、(借方)特定資産 (貸方)特定財産としたが、
今期目的使用のため取崩し期末残高はゼロとなった。

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない。

	一般社団法人　日本統計学会	2011年度　決算書		
正味財産増減計算書		2011年4月1日から2012年3月31日まで		（単位　円）
		11年度更改予算	11年度決算	備考
I. 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益		16,319,000	15,898,660	
会費収入		10,900,000	10,600,000	
	名誉会員・正会員	10,000,000	9,699,000	
	学生会員	200,000	225,000	
	遡及請求分	700,000	676,000	
賛助法人費		1,000,000	1,010,000	
団体会員費		200,000	240,000	
科学研究費補助金		800,000	800,000	
雑収入		1,919,000	1,748,660	
	会誌購読料	700,000	580,500	
	利子収入	12,000	4,074	
	広告収入	900,000	715,000	
	その他	307,000	449,086	過年度統計検定関係費回収306,881
経済学会連合会補助金		0	0	
名簿作成積立金取り崩し(注1)		0	0	
60周年記念基金取り崩し(注1)		0	0	
75周年記念基金取り崩し(注1)		0	0	
寄付金（財団法人統計情報研究開発センター）		1,500,000	1,500,000	統計検定関係拠出金 1,500,000
(2) 経常費用		17,705,000	17,265,262	
印刷費		8,150,000	8,453,355	*
	会誌（42巻1,2,42−J1,J2号）	6,300,000	6,836,996	
	会報(151−154号)	750,000	712,800	
	名簿印刷費	600,000	410,900	
	その他	500,000	492,659	会誌と会報等の発送費用等
大会開催費		900,000	900,440	*
	春季集会開催費	600,000	565,372	
	各賞運営経費	300,000	279,068	
	出版賞費	0	0	
	その他	0	56,000	連合大会賛助会員招待分
研究部会費		300,000	0	
研究分科会費		100,000	100,000	
学会運営会合費		230,000	181,899	
	評議員会（社員総会）	70,000	53,609	
	特別委員会	20,000	78,969	
	統計教育委員会	20,000	0	
	会誌編集委員会	20,000	0	
	理事会	100,000	49,321	
事務費		320,000	275,581	
	一般事務人件費	20,000	5,000	
	校正編集事務人件費	170,000	78,000	
	発送事務人件費	80,000	87,150	
	事務用品	40,000	22,376	
	事務室借料	0	0	
	その他	10,000	83,055	事務員の交通費・収入印紙
学会事務業務委託費		2,340,000	2,592,000	*
通信・郵送費		1,580,000	1,588,075	*
	会誌送料	650,000	686,025	
	会報送料	400,000	457,540	
	名簿送料	130,000	67,815	
	その他通信・郵送料	400,000	376,695	
役員旅費補助		300,000	0	
各種分担金		125,000	150,237	*
	日本経済学会連合	35,000	35,000	
	国際統計学会ISI	0	25,237	
	横断型連合	50,000	50,000	
	統計関連学会連合	40,000	40,000	
ネットワーク維持費		10,000	12,075	*ドメイン使用料，学会サーバー委託
国際交流促進費		350,000	0	
名簿作成積立金		0	0	
統計検定関係費		0	0	
一般財団法人統計質保証推進協会宛拠出金		3,000,000	3,000,000	設立拠出金
租税公課		0	11,600	*
予備費		3,000,000	0	
当期経常増減額		▲ 1,386,000	▲ 1,366,602	
一般正味財産期首残高		21,579,793	21,579,793	
一般正味財産期末残高		20,193,793	20,213,191	
II 指定正味財産増減の部		0	0	
当期指定正味財産増減額		0	0	
指定正味財産期首残高		0	0	
指定正味財産期末残高		0	0	
III　正味財産期末残高		20,193,793	20,213,191	

(注1)目的使用のため特定財産を取崩し一般正味財産（特定財産以外）へ繰入を行っているが、内部取引として消去されるため正味財産増減計算書上には現れてこない。

(注2) 費用項目中予算を超過する項目(*印)があるが全て予備費の範囲内のもの

(参考)	一般社団法人　日本統計学会	2011年度　決算書（公益法人会計上要求されないが予算管理の便宜上特定財産を別建扱いにて計上）		
正味財産増減計算書		2011年4月1日から2012年3月31日まで		（単位　円）
		11年度更改予算	11年度決算	備考
I. 一般正味財産（特定財産以外）増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益		19,651,000	19,829,832	
会費収入		10,900,000	10,600,000	
	名誉会員・正会員	10,000,000	9,699,000	
	学生会員	200,000	225,000	
	遡及請求分	700,000	676,000	
賛助法人費		1,000,000	1,010,000	
団体会員費		200,000	240,000	
科学研究費補助金		800,000	800,000	
雑収入		1,919,000	1,747,683	
	会誌購読料	700,000	580,500	
	利子収入	12,000	3,097	
	広告収入	900,000	715,000	
	その他	307,000	449,086	過年度統計検定関係費回収306,881
経済学会連合会補助金		0	0	
名簿作成積立金取り崩し		0	600,000	
60周年記念基金取り崩し		3,332,000	3,332,149	統計検定関係拠出金1,500,000, 貸出金1,500,000, 学会活動等332,149
75周年記念基金取り崩し		0	0	
寄付金（財団法人統計情報研究開発センター）		1,500,000	1,500,000	統計検定関係拠出金 1,500,000
(2) 経常費用		17,705,000	17,265,262	
印刷費		8,150,000	8,453,355	
	会誌（42巻1,2,42-J1,J2号）	6,300,000	6,836,996	
	会報(151-154号)	750,000	712,800	
	名簿印刷費	600,000	410,900	
	その他	500,000	492,659	会誌と会報等の発送費用等
大会開催費		900,000	900,440	
	春季集会開催費	600,000	565,372	
	各賞運営経費	300,000	279,068	
	出版賞費	0	0	
	その他	0	56,000	連合大会賛助会員招待分
研究部会費		300,000	0	
研究分科会費		100,000	100,000	
学会運営会合費		230,000	181,899	
	評議員会（社員総会）	70,000	53,609	
	特別委員会	20,000	78,969	
	統計教育委員会	20,000	0	
	会誌編集委員会	20,000	0	
	理事会	100,000	49,321	
事務費		320,000	275,581	
	一般事務人件費	20,000	5,000	
	校正編集事務人件費	170,000	78,000	
	発送事務人件費	80,000	87,150	
	事務用品	40,000	22,376	
	事務室借料	0	0	
	その他	10,000	83,055	事務員の交通費・収入印紙
学会事務業務委託費		2,340,000	2,592,000	
通信・郵送費		1,580,000	1,588,075	
	会誌送料	650,000	686,025	
	会報送料	400,000	457,540	
	名簿送料	130,000	67,815	
	その他通信・郵送料	400,000	376,695	
役員旅費補助		300,000	0	
各種分担金		125,000	150,237	
	日本経済学会連合	35,000	35,000	
	国際統計学会ISI	0	25,237	
	横断型連合	50,000	50,000	
	統計関連学会連合	40,000	40,000	
ネットワーク維持費		10,000	12,075	ドメイン使用料, 学会サーバー委託
国際交流促進費		350,000	0	
名簿作成積立金		0	0	
統計検定関係費		0	0	
一般財団法人統計質保証推進協会宛拠出金		3,000,000	3,000,000	設立拠出金
租税公課		0	11,600	
予備費		3,000,000	0	

II. 一般正味財産(特定財産)増減の部			
1. 60周年記念基金			
収益の部			
利息収入	0	910	
費用の部			
統計検定関係拠出金目的の取崩し	1,500,000	1,500,000	
統計検定関係貸付金目的の取崩し	1,500,000	1,500,000	
学会活動・各賞等目的の取崩し	332,149	332,149	
当期増減額	▲ 3,332,149	▲ 3,331,239	
60周年記念基金期首残高	7,387,726	7,387,726	
60周年記念基金期末残高	4,055,577	4,056,487	
2. 75周年記念基金			
収益の部			
利息収入	0	67	
当期増減額	0	67	
75周年記念基金期首残高	964,972	964,972	
75周年記念基金期末残高	964,972	965,039	
3. 学会活動積立金			
当期増減額	0	0	
学会活動積立金期首残高	3,500,000	3,500,000	
学会活動積立金期末残高	3,500,000	3,500,000	
4. 名簿作成積立金			
費用の部			
名簿作成等のための取崩し	600,000	600,000	
当期増減額	▲ 600,000	▲ 600,000	
名簿作成積立金期首残高	600,000	600,000	
名簿作成積立金期末残高	0	0	
III. 指定正味財産増減の部	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	
IV. 正味財産期末残高	19,593,644	20,213,191	

V. 投資活動収支の部			
投資活動収入	0	0	
投資活動支出	4,500,000	4,500,000	一般財団法人 統計質保証推進協会宛貸付金
投資活動収支合計	▲ 4,500,000	▲ 4,500,000	

(注) 費用項目中予算を超過する項目があるが全て予備費の範囲内のもの

監　査　報　告　書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2011 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一．事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。

二．理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2012 年 5 月 2 日

一般社団法人　日本統計学会

監事　矢島美寛　印

監事　美添泰人　印

監事　渡部敏明　印

月25日－30日）の前後に日本でサテライト集会を開催する可能性について質問があった.

（4）岩崎理事長より，2015年度入試における統計分野の扱いについて，学会が働きかけるよう提案があり，前向きに取り組むことを了承した.

10. 第１回通常理事会・委員会報告

第１回通常理事会報告

日時：2012年５月19日（土）12：00－13：05

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者

理事：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太（庶務），西郷浩（庶務），小林正人（会誌編集・欧文），青嶋誠（会誌編集・和文），鈴川晶夫（広報），勝浦正樹（大会），渡辺美智子（検定），狩野裕（企画・行事）（以上10名，カッコ内は役割分担）

監事：矢島美寛，美添泰人，渡部敏明（以上３名）

オブザーバー：山本渉，竹内惠行，北村佳之，中西寛子

＜第１議案＞常設委員会における委員の交代

岩崎理事長より，以下の委員会における委員の交代が提案され，審議の結果，了承した.

- 企画・行事委員会　佐藤美佳委員より山本渉委員，熊谷悦生委員に交代（2012年４月１日付）

＜第２議案＞2011年度事業報告について

岩崎理事長より提示された2011年度事業報告を承認し，社員総会に提出することとした.

＜第３議案＞2011年度決算について

岩崎理事長より提示された2011年度決算書を承認し，社員総会に提出することとした.

＜第４議題＞監査報告について

美添監事より，資料に基づき，2011年度事業報告等および計算書類の監査の結果，適正な処理がなされているとの報告があった．矢島監事より，補足的な説明がおこなわれた.

＜第５議題＞統計質保証推進協会の2011年度事業報告・決算報告について

美添一般財団法人統計質保証推進協会理事長より，同協会の2011年度事業報告（案）・決算報告書（案）に基づき，同協会の事業と決算が報告されこれを承認した.

＜第６議題＞質保証委員会等の細則について

岩崎理事長から提示された日本統計学会質保証委員会運用規則（案），日本統計学会基準委員会運用規則（案），および日本統計学会質保証推進委員会運用規則（案）を，前２者が臨時委員会，後１者が小委員会であることを確認し，修正を経て，承認し，社員総会に提出することとした.

＜第７議案＞会員の入退会

上野庶務担当理事より提示された回覧資料に基づき，内容を承認した.

＜第８議案＞

竹村会長より，定時社員総会を以下のとおり招集するとの提案があり，承認した.

1．日時　2012年６月16日（土曜日）午後１時30分から

2．場所　東京大学本郷工学部６号館103室

3．会議の目的事項

（1）定時社員総会における通常の審議

岩崎理事長より，臨時理事会を2012年７月21日（土）12：00～に統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室にて開催予定であるとの報告が

あった.

委員会報告

日時：2012年５月19日（土曜日）13：05－14：15

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太，西郷浩，小林正人，青嶋誠，鈴川晶夫，勝浦正樹，渡辺美智子，狩野裕，山本渉，竹内惠行，北村佳之，矢島美寛（監事），美添泰人（監事），渡部敏明（監事），中西寛子（オブサーバー）

１．欧文誌委員会

小林委員長より，プロジェクトユークリッド担当者との対談内容について報告され，同プロジェクトによる欧文誌の出版を検討すべしと提案された．科学研究費補助金成果公開促進費の新制度との関係を整理した上で検討することとした.

２．和文誌委員会

青嶋委員長より，投稿数が順調に増加していることが報告された．和文誌の企画と任期のタイミングの乖離には引継ぎによって対応することとした.

３．大会委員会

勝浦委員長より，資料に基づき，（１）2012年度統計関連学会連合大会プログラム委員会からの進捗状況，（２）同大会における韓国統計学会・台湾統計協会との国際セッション，（３）同大会運営委員会からの予算案等，について報告があった.

４．企画・行事委員会

岩崎理事長より，次回（2013年）の春季集会は，会長・理事長選挙の日程を考慮して，東京（学習院大学）で開催するとの説明があった.

５．庶務委員会

上野委員長より，（１）ウェブ名簿閲覧システムが公開されたこと，（２）欧文誌の出版助成（科学研究費・研究成果公開促進費）の交付が内定した（２年）こと，（３）2012年度体制の理事会および代議員用のメーリングリストを吉田委員が作成したこと，が報告された.

６．広報委員会

鈴川委員長より，資料に基づき，会報152号の構成・進捗状況について報告があった.

７．表彰委員会

竹村委員長より，第17回統計学会賞，第８回統計活動賞，第８回統計教育賞，第６回研究業績賞，第５回出版賞，第26回小川賞の表彰者が報告された．社員総会への報告を経て公表することとした.

８．その他

（１）日本統計学会と日本経済新聞社の統計教育普及に向けた共同プロジェクト

竹村会長より，資料に基づき，「社会で求められる『統計力』シンポジウム」（無料）を日本統計学会主催で開催することを承認した．また，統計検定を念頭に置いたセミナー（有料）の開催について報告があり，日本統計学会としてこれに協力することとした.

（２）日本品質学会からの賛同依頼

日本品質管理学会から「教員養成コア・カリキュラムへの教科横断的問題解決教育の提言」への賛同依頼があり，日本統計学会としてこれに賛同する旨を日本品質管理学会に文書で回答することとした.

（３）統計学問題データベースの構築と問題の公募について

竹村会長より，資料に基づき，(a) 日本統計学会の会員に統計学の問題を公募し，集められた問題を審査・修正のうえデータベース化して，(b) 統計検定や問題集作成への利用を計画していることが報告された．解答の公開の仕方や分野・水準の表示，著作権との関連を整理したうえでこの取り組みを進めることとした.

以上

11. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2012年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います．会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします．速やかな納入にご協力をお願い申し上げます．また便利な会費自動払込制度もご用意しています．次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい．

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください．手続きに必要な書類が送付されます．

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
財団法人 統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax：03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました．謹んで追悼の意を表し，御冥福をお祈り申し上げます．

高山　俊則	会員
中村　耕治	会員

入会承認

浅見征平，磯崎隆司，魚住龍史，大床太郎，金大柱，栗下和義，栗原伸一，河野泰幸，下川朝有，菅原慎矢，田中豊人，玉谷充，友寄一郎，豊田哲也，平尾将剛，牧大樹，村田眞哉，柳貴英，山下陽司，山本庸平，吉澤和子，持元江津子，渡邉知史，マツダ株式会社　　（敬称略）

退会承認

朝日弓未，石垣雅英，石川豊治，大藪和雄，亀井信孝，北村研一郎，熊坂夏彦，小村昌平，竹内久仁子，丹慶勝市，中村泰幸，中山功，橋ヶ谷佳史，濱田昇，廣岡義昭，藤原俊朗，丸山久美子，安田正實　　（敬称略）

現在の会員数（2012年６月１日）

名誉会員	18名
正会員	1,374名
学生会員	44名
総計	1,436名
賛助会員	14法人
団体会員	6団体

12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの，会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください．以下のような情報も歓迎いたします．

- 来日統計学者の紹介
  訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください．
- 博士論文・修士論文の紹介
  （１）氏名（２）学位の名称（３）取得大学（４）論文題名（５）主査または指導教員（６）取得年月　をお知らせください．
- 求人案内（教員公募など）
- 研究集会案内

●新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください．紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください．

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します．

原稿送付先：

〒060-0808 北海道札幌市北区北８条西５丁目
北海道大学大学院経済学研究科
現代経済経営専攻
鈴川　晶夫　宛
E-mail：koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
  http://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL：
  http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL：
  http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
  meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
  koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
  shom@jss.gr.jp